

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和3年3月9日
タイトル	学校の「くわい」を収穫したよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和2年12月21日（月）福山市立川口小学校5年生がくわい収穫の農業体験をしたので取材しました。福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培しており、農家の方から「くわい」栽培の話を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について学ぶことで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

川口小学校の校庭にあるミニ田んぼで子ども達が植付け、育ててきたくわいを収穫する日がきました。

今年は新型コロナウイルス感染拡大により6月に行われたくわいの植付けの取材はできませんでしたが、11月の出前授業と今回のくわい収穫は感染対策をして取材することができました。

校庭のくわい畑は前の週に5年生の2クラスが収穫していて水面からはくわいが見えませんでした。子ども達が裸足で入り素手で土の中を手探りで探すと次々にくわいを見つけ収穫しました。



氷のように冷たい水の中で「手も足も痛いよ。」と言いながら手足を真っ赤にして収穫していました。

畑に入らない子は収穫したくわいを受け取り、冷たい水道水できれいに洗ったり、畑の中の地下茎などのゴミを集め全員一丸で収穫しました。

収穫されたくわいは大きくて芽もピンとした立派なものばかりで、子ども達は植付けから収穫まで自分たちが栽培したことに自信と喜びに目を輝かせていました。

大きなタライ一杯にくわいを収穫できました。畑からあがり水道水をホースでかけてもらいながら手足を洗うと畑の水があまりにも冷たかったからか「水道の水、温かいね。」と言っていました。バケツにお湯を準備し水道で洗った後に手足にお湯をかけてもらい「いっぺんにあったまったよ。」と喜んでいました。子ども達は元気だと思いました。

3学期には収穫したくわいを使って調理実習をし、半年間くわいを通して学んだことをスタンプラリーにして川口小学校の全児童に川口のくわいを知ってもらう取り組みをされるそうです。

